

ど ぞう づく や なみ
 80 土蔵造りの家並

鳥取県 倉吉市



江戸時代の城下町の面影を残す土蔵群は、倉吉特有の景観。「古い町並保存会」を中心に、市民の寄付金、市の補助によりその修復が行われている。

倉吉市は、古くから伯耆の国の中心として政治、経済、文化、交通の要衝として発展した城下町である。特に、市の中心部を流れる玉川沿いの本町通り打吹地区は、商家が建ち並び、市の商業の中心として栄えてきたところである。

家並の多くは、いわゆる店舗併用住宅で、主屋はほとんど平入り。玉川沿いに面して町家裏の土蔵群が建ち並び、特に、南側の土蔵群は裏門倉、奥座敷、醸造倉

となっている。各戸の裏口から玉川に石橋がかけられ、玉川と石積と土蔵群が倉吉独特の景観を保持、形成している。

この玉川沿いの土蔵群の町並みを修復保存するため、市民の手により「古い町並み保存会」が発足、市民の寄付、市の補助金などによって、昭和五十九年度から二か年にわたり、しっくい壁、焼杉板、石橋、石積みなどの修復が行われた。



データボード

■所在地
 鳥取県倉吉市魚町2519
 ～仲町2846

■応募者
 倉吉市役所
 ☎0858-22-8111